

## 第 39 回 夕張川流域会議 議事録

日時：令和 2 年 9 月 8 日（火）13：15～15：30

場所：雨煙別川（NPO 雨煙別学校側の区域）の視察



### <主な意見>

#### <サケ稚魚の放流について>

- ・先々週に「雨煙別川のかわまちづくりシンポジウム」を開催、先週は「栗沢頭首工の魚道の草刈り」を開催したくさんの参加と作業のご協力を頂いた。感謝している。
- ・サケの稚魚放流は今年で 13 回目、4 月 4 日に実施した。今年はこのコロナ感染対策から参加者はマスク着用で、消毒をしながら約 60 名が行った。
- ・この放流活動は、元は栗山青年会議所が行っていたもので現在は夕張川自然再生協議会と共催という形で NPO 雨煙別学校と栗山町教育委員会の協力を頂いて実施している。

#### <雨煙別川の総合学習について>

- ・NPO 法人雨煙別学校の活動フィールドとして、水辺の生きもの調べや川流れなどの活動をここ（学校傍の雨煙別川）で行っている。
- ・今年は 7 月 14 日に地元の中学生の生きもの調べという形で行い、8 月下旬に宿泊学習で、岩見沢の小学 5 年生が、同様の活動を行っている。
- ・かわまちづくり事業が進んで、この場所も親水広場として整備されるということで、NPO として大変期待している。

#### <簡易魚道について>

- ・北海道の協力を得ながら雨煙別川のかわまちづくり事業の一環として、簡易の魚道を湯地橋下流の落差工に設置した。
- ・落差工は、水深数センチで魚は遡上できず、その下流でサクラマスが産卵しているがかわまちづくり事業で改修工事があるのでこの区間にはネットを敷き、魚が落差工を上がれるように石を組んで水深を確保した。

- ・落差工上流での産卵を期待しての魚道だが、70 cmクラスの大きな石を小型ユンボで苦勞して組み上げた。数回の洪水があったが、それに耐えて、現在機能を發揮している。工事後、相当の数のウグイがこのプール内に入った。

- ・30 cmクラスのウグイもいたが遡上したようだ。上手く行けば今日の視察場所にもサクラマスが入っているかもしれない。

### <河川清掃と産卵床づくりについて>

- ・9月12日に、栗山町中央橋付近で恒例の河川清掃を行う。また今年にはサケの産卵床づくりを同時に行う。皆様のご協力をお願いしたい。

### <雨煙別川の活動について>

- ・栗山ではかねてから流域の子ども達の体験学習を行っていたが、清幌床止めにサケが上ってきたことをきっかけに、サケを遡上させる活動が始まった。

- ・清幌床止め魚道が改善され、栗沢頭首工に魚道がつくられた。たくさんの流域の市民や団体が川について一生懸命頑張っていることに応えてくれた。「生きもの豊かな川づくり」のために長沼頭首工についても検討が必要。

- ・雨煙別川にもサケ・マスが上がるので良い川にしようと頑張っている。かわまちづくり事業でサイクリングロード整備や川の学習拠点づくりを行っていく。

- ・栗山町もサケの産卵床の造成に取り組み、雨煙別学校にトイレと物置を整備する。市民サイドでは、ゴミを川に捨てないように啓発運動をしたいと考えている。

- ・今後も国、道の職員、ならびに流域の方々とともに夕張川の良い川づくりの一環として、雨煙別川のかわまちづくりを行いたい。是非応援して頂きたい。

### <流域の史跡、自然遺産の看板設置について>

- ・ハサンベツ里山計画実行委員会は河川協力団体として官民の接着剤の役割を果たしてきた。現在、栗山だけでなく流域の各主体の協力でかわまちづくりの事業が進んでいる。

- ・夕張川流域の歴史・文化・産業・自然遺産の場所に説明看板を建てることを考えている。

- ・ポンウエンベツ川では、アイヌクワガタという重要文化財が出土した遺跡もあり、ナウマンゾウの歯の化石が発掘されている。由仁町にはマンモスやオオツノシカの発掘場所もある。アイヌ語地名や松浦武四郎が歩いた足跡、土工組合の土木施設跡など流域内に11カ所の候補がある。

- ・子ども達の体験学習やバスツアーを開催する時に、説明看板があるとありがたい。